

令和5年度
美馬小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 基礎的基本的な学力の習得と家庭学習の習慣化
- 児童みんながよく聞き、考え、表現する授業の創造

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員	校長	上田井幸雄	教頭	藤岡 浩
		教務主任	松田健一郎		
曾我部富美		研修主任	佐藤 仁美		

校長

上田井 幸雄

○次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や教員からの報告、様々な機会を捉え、取り組み状況の把握を行う。

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○学びに対して肯定的である。学習に真面目に取り組んでいる。 ●文章を読み取る力、話の内容を聞き取る力が弱い。 ●漢字の活用、応用力が不十分である。 ●語彙が少なく、的確な表現のできない児童が多い。	・各学年で習得する平仮名、片仮名、漢字、計算など、基礎的基本的な知識・技能を確実に身に付けている。 ・集中して話を聞くことができる。	・漢字の小テストや算数の計算練習等を行い習熟を図る。 ・「阿波っこタイムズ」や国語辞典等を活用することで、語彙を増やしたり読解力を養ったりする。 ・話合いの仕方やルール、話し方・聞き方のよいモデルを提示する。			

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○定型化された発表形態、ホワイトボードを使った場面では進んで表現できる。 ●話し合うことを苦手とする児童がいる。 ●友達の意見を聞き自分の意見を深めることが十分でない児童もいる。	・自分の考えを整理し、理由や根拠を明らかにしながら表現することができる。 ・友達と意見を交換しながら考えを深め、学び合いができる。	・思考する時間、話合いの時間を確保し、児童が自分の意見を主体的に表現できるようにする。 ・ペア学習、グループ学習を段階的に指導する。 ・ICT やホワイトボード等を効果的に使って、情報交換や表現ができるようにする。			

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○体験的な活動には進んで取り組むことができる。 ○学年に応じた自主学習に取り組んでいる。 ●目標に向かって、毎日こつこつ取り組むことができていない児童がいる。 ●人との関わりや様々な経験の不足から、自分のしたいことや学びたいことに気づいていない児童がいる。	・自分の目標をもち、それに向かって粘り強く努力ができる。	・めあてを意識しながら学習に取り組みせ、自分の学びについての振り返りをさせる。 ・児童の興味関心を引き出すことができるよう教材教具の提示の仕方を工夫する。 ・地域と関わる機会や体験活動を増やし、活動を充実させる。 ・中学校との連携を図り、学習へのさらなる関心・意欲を高める。			

令和5年度 学力向上ロードマップ

